

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ健康 学科
SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	スポーツ栄養学 19s201		担当教員 (実務経験)	小松 信隆 有 ☒ 無 ☐ 管理栄養士	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義実習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	スポーツ栄養学の基本、食事からの栄養摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。				
到達目標	スポーツ栄養学の基本を理解し、様々な状況に対応した具体的なスポーツ栄養コンディショニングの計画を立てられるようになる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	受講姿勢等および講義毎の小レポートの提出で30%、試験70%で評価。 また、他のレポートが未提出の場合は試験の受験資格を失うこととする。		
	レポート	15%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	15%			
履修上の 留意事項	講義、グループワーク、調理実習、各自、目的を持って積極的に授業に臨んでください。やむを得ず欠席する場合は、他の出席者より授業内容を確認してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	ガイダンス／五大栄養素		ガイダンス／五大栄養素を知り、それぞれの役割を理解する。	
	2	三大栄養素		三大栄養素を知り、それぞれの役割を理解する。	
	3	三大栄養素の消化・吸収		三大栄養素の消化吸収の経路及び特徴を理解する。	
	4	炭水化物と食事		炭水化物について理解し、それを多く含む食品・料理をイメージする。	
	5	脂質と食事		脂質について理解し、それを多く含む食品・料理をイメージする。	
	6	たんぱく質と食事		たんぱく質について理解し、それを多く含む食品・料理をイメージする。	
	7	ビタミン・ミネラルと食事		ビタミン・ミネラルについて理解し、それを多く含む食品・料理をイメージする。	
	8	三大栄養素のエネルギー代謝①		三大栄養素のエネルギー代謝を理解する。	
	9	三大栄養素のエネルギー代謝②		運動強度の違いによる代謝を理化する。	
	10	ホルモンと食事摂取のタイミング		それぞれの栄養素が必要なタイミングと摂取方法とホルモン分泌について理解する。	
	11	水分摂取のタイミング		正しい水分摂取方法を理解する。	
	12	実践スポーツ栄養学		1～11の講義内容を踏まえ実践的なスポーツ栄養学について考察する。	
	13	スポーツ栄養学のまとめ		1～12のまとめ	
	14	調理実習①－1			
15	調理実習①－2				

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT／SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	健康運動理論 19s202		担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を考慮し、評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	オリエンテーション		授業内容説明、諸注意、その他	
	2	第1章 健康づくり施策概論		1)健康と健康増進の概念 2)わが国の現状	
	3	第1章 健康づくり施策概論		3)生活習慣病とメタボリックシンドローム 他	
	4	第2章 運動生理学		1)運動の発現 2)骨格筋収縮の仕組み	
	5	第2章 運動生理学		3)筋線維タイプと収縮特性 他	
	6	第2章 運動生理学		6)トレーニングと骨格筋 7)運動の持続 他	
	7	第2章 運動生理学		11)トレーニングによる呼吸循環系の適応 他	
	8	第3章 機能解剖とバイオメカニクス		1)身体運動に関係する筋と骨格 2)関節運動	
	9	第3章 機能解剖とバイオメカニクス		3)筋の弾性要素と弾性エネルギー 他	
	10	第4章 栄養摂取と運動		1)健康と栄養～	
	11	第4章 栄養摂取と運動		8)生活習慣と栄養・食生活	
	12	第5章 体力測定と評価		1)無酸素性・有酸素性能力の測定 他	
	13	第5章 体力測定と評価		5)体脂肪量の測定 6)新体力テスト 他	
	14	第6章 健康づくりのための指導法		1)健康の維持増進のための身体活動 他	
15	第6章 健康づくりのための指導法		6)ウォーミングアップとクーリングダウン 他		

16	第7章 運動指導の基礎	1)運動実践に関わる社会・心理・環境要因 他
17	第7章 運動指導の基礎	4)多くの参加者を得るための留意点 他
18	第8章 健康づくり運動の実際	1)健康運動実践指導者とは
19	第8章 健康づくり運動の実際	2)ウォーキング
20	第8章 健康づくり運動の実際	3)ジョギング 4)エアロビックダンス
21	第8章 健康づくり運動の実際	5)水泳・水中運動 6)ストレッチング
22	第8章 健康づくり運動の実際	7)レジスタンス運動
23	第8章 健康づくり運動の実際	8)ウォーミングアップとクーリングダウン
24	第9章 運動障害と予防・応急処置	1)運動中止の判定 2)内科的な急性・慢性障害
25	第9章 運動障害と予防・応急処置	4)救急蘇生法 5)整形外科的障害 他
26	まとめと復習①	第1章～第5章
27	まとめと復習①	第6章～第9章
28	模擬試験①	基礎問題／応用問題
29	模擬試験②	基礎問題／応用問題
30	模擬試験③	基礎問題／応用問題

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT／SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	健康プログラム I 19s203 / 19t202		担当教員 (実務経験)	北村 和弘 有 ☒ 無 ☐ スポーツ指導員		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。					
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	試験60% 小テスト10% 提出物10% その他20%(受講姿勢、受講態度等10%、担当所見10%)			
	レポート	%				
	小テスト	10%				
	提出物	10%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用(現場経験)＝専門(プロ)となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	オリエンテーション		授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	運動と健康		運動と健康、スポーツプログラマーの役割		
	3	フィットネス・トレーニング①		フィットネス・エクササイズの種類と内容／全身持久力		
	4	フィットネス・トレーニング②		筋力		
	5	フィットネス・トレーニング③		筋持久力		
	6	フィットネス・トレーニング④		柔軟性／調整力		
	7	マシントレーニング		理論／実習		
	8	ヘルス・エクササイズ①		体操系		
	9	ヘルス・エクササイズ②		エアロビクス系		
	10	ヘルス・エクササイズ③		レクリエーションスポーツ系		
	11	体力測定と評価		体力測定の方法、測定結果の処理		
	12	体力測定と評価		体力評価とスポーツプログラム		
	13	スポーツ相談の実際		スポーツ相談の意義		
	14	スポーツ相談の実際		スポーツ相談の実際		
15	まとめ		学習内容の復習・定期試験対策			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT／SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	健康プログラムⅡ 19t203 / 19s204		担当教員 (実務経験)	北村 和弘 有 ☒ 無 ☐ スポーツ指導員		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。					
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	試験60% 小テスト10% 提出物10% その他20%(受講姿勢、受講態度等10%、担当所見10%)			
	レポート	%				
	小テスト	10%				
	提出物	10%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用(現場経験)＝専門(プロ)となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	オリエンテーション		授業について、諸注意等		
	2	フィットネス・エクササイズと健康管理		体調チェックの意義と方法 スポーツと疲労回復(栄養)		
	3	フィットネス・エクササイズと健康管理		ウォーミングアップ		
	4	フィットネス・エクササイズと健康管理		クーリングダウン		
	5	フィットネスプログラムの実際		フィットネスプログラムの基本的方法①		
	6	フィットネスプログラムの実際		フィットネスプログラムの基本的方法②		
	7	フィットネスプログラムの実際		子どものフィットネスプログラム①		
	8	フィットネスプログラムの実際		子どものフィットネスプログラム②		
	9	フィットネスプログラムの実際		中年のフィットネスプログラム		
	10	フィットネスプログラムの実際		高齢者のフィットネスプログラム①		
	11	フィットネスプログラムの実際		高齢者のフィットネスプログラム②		
	12	フィットネスプログラムの実際		女性のフィットネスプログラム		
	13	フィットネスプログラムの実際		障害者フィットネスプログラム		
	14	まとめ①		学習内容の復習、確認テスト①		
15	まとめ②		学習内容の復習、確認テスト②			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ健康 学科
SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	ジュニアスポーツ指導の基礎 19s205	担当教員 (実務経験)	田口 清輝 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	子どもスポーツの指導者としての基礎を学びます。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学びます。ジュニアスポーツ指導員の合格を目指します。				
到達目標	今日の子どもの現状、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し説明する事が出来る。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験の結果およびその他(小テスト、受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	30%			
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。小テストを行います。ノートを使いますので用意してください。、ジュニアスポーツ指導員資格の出題範囲にもなっています。毎時間きっちり楽しみながら勉強しましょう！！				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第1章 概論①	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値 子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題		
	2	第1章 概論②	子どもの身体活動ガイドライン／アクティブチャイルドプログラム		
	3	第1章 概論③	子どものスポーツ活動の現状と課題／発育発達期の遅速と競技成績／ジュニアスポーツ指導員の役割		
	4	第2章 コーチング①	子どもスポーツ／コミュニケーションスキル／良い指導者としての観点		
	5	第2章 コーチング②	ジュニア期のコーチングの目指すもの／指導の留意点		
	6	第2章 コーチング③	発達に応じたコーチング／プログラム作成時のポイント		
	7	第2章 コーチング④	安全管理上の配慮事項／コーチングの実践事例／ケーススタディ		
	8	第3章 体力①	発育期の体格と体力／からだ(形態)の発育・発達		
	9	第3章 体力②	運動能力(機能)の発育・発達／体力の測定と評価		
	10	第4章 動きの発達①	発育期(幼児・児童・思春期以降)における動きの発達／動きの獲得		
	11	第4章 動きの発達②	発達特性と個人差／動きの質的評価		
	12	第4章 動きの発達③	動きの評価から指導へ／指導への応用		
	13	第5章 心理①	運動能力の構成／こころの発達		
	14	第5章 心理②	子どもの心理的特徴／心理的アプローチ		
15	第5章 心理③	子ども達のストレスマネジメント			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ健康 学科
SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	ジュニアスポーツ指導の実際 19s206	担当教員 (実務経験)	田口 清輝 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者としての意識・自覚を高め、ジュニアスポーツにおける教育ができる力を養いましょう。人の運動神経を左右する運動指導とは何かを学びます。ジュニアスポーツ指導員資格の取得を目指します。				
到達目標	成長期における栄養とケガ、また性差について理解し、適切な運動プログラムを作成し実践指導することが出来る。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験の結果およびその他(小テスト、受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	30%			
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。小テストを行います。ノートを使いますので用意してください。、ジュニアスポーツ指導員資格の出題範囲にもなっています。毎時間きっちり楽しみながら勉強しましょう！！				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第6章 栄養①	成長期における食事のあり方／ジュニアスポーツにおける食事の意義		
	2	第6章 栄養②	栄養摂取の過不足で起こる問題とその予防／栄養障害／熱中症		
	3	第6章 栄養③	スポーツ食育の勧め方／水分補給		
	4	第7章 スポーツ医学①	からだの構造と成長発達		
	5	第7章 スポーツ医学②	スポーツと内科的障害／スポーツによる外障と障害		
	6	第7章 スポーツ医学③	スポーツ外傷・障害予防への取り組み		
	7	第8章 女性とスポーツ①	女性の身体的・体力的特徴		
	8	第8章 女性とスポーツ②	女性において起こりやすい諸問題／摂食障害／貧血		
	9	第8章 女性とスポーツ③	月経とコンディショニング		
	10	実技編 運動遊び・スポーツ①	発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択		
	11	実技編 運動遊び・スポーツ②	スポーツ指導における運動遊びの活用		
	12	実技編 運動遊び・スポーツ③	アイスブレイクの必要性		
	13	実技編 運動遊び・スポーツ④	運動遊びをアレンジする必要性		
	14	指導プログラム作成と実践①	プログラムを作成し実践する①		
15	指導プログラム作成と実践②	プログラムを作成し実践する②			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ健康 学科
SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	救急処置法 19s207	担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	スポーツ活動中に多いケガや疾病について、その発生原因や症状について理解し、対応の仕方・救急処置を行うべきかについて学習する。				
到達目標	スポーツ活動中の外傷や緊急時の対応が出来ることを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を考慮し、評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	講義形式…プリント・視聴覚機器を活用しながら授業を展開をしていきます。運動・スポーツと怪我は隣り合わせです。基礎知識を学び、状況に応じて対応できる能力を身につけましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	救急処置の基本知識		救急処置の基本事項	
	2	外傷時の救急処置		RICE処置の重要性	
	3	外傷時の救急処置		RICE処置の留意点	
	4	外傷時の救急処置		RICE処置の具体的方法	
	5	外傷時の救急処置		止血の方法と実際	
	6	外傷時の救急処置		筋けいれん	
	7	緊急時の救命処置		心肺蘇生の実際	
	8	内科的疾患の救急処置		熱中症とは	
	9	内科的疾患の救急処置		熱中症の分類	
	10	内科的疾患の救急処置		熱中症への対処	
	11	内科的疾患の救急処置		熱中症の予防	
	12	内科的疾患の救急処置		過換気症候群	
	13	内科的疾患の救急処置		過換気状態への対処	
	14	まとめ①		試験対策①	
15	まとめ②		試験対策②		

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT／SP・PE・SC 専攻

授業科目 (科目ID)	健康運動実践指導者対策理論 19t206 / 19s208	担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習していきましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	対策内容の説明		
	2	対策模試 1	対策模試の実施		
	3	解答・解説 1	対策模試の解答・解説		
	4	対策模試 2	対策模試の実施		
	5	解答・解説 2	対策模試の解答・解説		
	6	対策模試 3	対策模試の実施		
	7	解答・解説 3	対策模試の解答・解説		
	8	対策模試 4	対策模試の実施		
	9	解答・解説 4	対策模試の解答・解説		
	10	1章・2章・3章まとめ	各章の重要ポイントの解説		
	11	4章・5章・6章まとめ	各章の重要ポイントの解説		
	12	7章・8章・9章まとめ	各章の重要ポイントの解説		
	13	対策模試・解答解説 1	全範囲の確認テスト		
	14	対策模試・解答解説 2	全範囲の確認テスト		
	15	対策模試・解答解説 3	全範囲の確認テスト		

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅣ／AT・MTⅢ／SP・PE・SCⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	スポーツプログラマー対策 19t434 / 19s247 / 19s209		担当教員 (実務経験)	北村 和弘 有 ☒ 無 ☐ スポーツ指導員		
対象年次・学期	4年／3年／2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて論理的に理解する。					
到達目標	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて、得点平均8割台を目標とする。					
テキスト・ 参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト 必要に応じて、資料を配布					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	小テスト 50% その他 50%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見20%)			
	レポート	%				
	小テスト	50%				
	提出物	%				
	その他	50%				
履修上の 留意事項	教本、資料を参考に論理的に授業を進め、模擬試験で理解度を確認する。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	運動と健康		運動と健康		
	2			スポーツプログラマーの役割		
	3	フィットネス・エクササイズの理論と実際		フィットネス・トレーニング		
	4			マシーントレーニング		
	5			ヘルス・エクササイズ		
	6	フィットネス・エクササイズと健康管理		フィットネス・エクササイズと体調		
	7			ウォーミングアップとクーリングダウン		
	8	体力測定と評価		体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラム		
	9	フィットネスプログラムの実際		フィットネスプログラムの基本的な方法		
	10			子ども・中年のフィットネスプログラム		
	11			高齢者・女性・障害者のフィットネスプログラム		
	12	スポーツ相談の実際		スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際		
	13	確認テスト①		過去問題①、解答、説明		
	14	確認テスト②		過去問題②、解答、説明		
15	確認テスト③		過去問題③、解答、説明			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅣ／AT・MTⅢ／SP・PE・SCⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	スイミング理論 19t404 / 19t309 / 19s210		担当教員 (実務経験)	今井 由美子 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	4年／3年／2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。水泳指導員検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。					
到達目標	水泳指導員合格に向けて、理解し述べる事が出来る。					
テキスト・ 参考図書等	水泳指導教本・プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	試験は筆記試験を行う。 小テスト、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	10%				
	提出物	10%				
	その他	10%				
履修上の 留意事項	各講義のテーマ毎にプリントを配布、水泳指導教本を使用し講義形式にて板書、説明を交えながら授業を展開する。、覚えることがたくさんあって大変ですが、実技のレベルアップのためにも重要な内容です。また、水泳指導をおこなう上でも必要な基本的知識なので、実際の指導に役立てられるように頑張って習得しましょう。水泳指導員を受験する学生は、必ず履修してください。また、まだ迷っているという学生も履修してください。実技にも役立ちます。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス 第1章 水泳と生活	授業の趣旨、内容説明 1. 水泳と生涯スポーツ			
	2	ガイダンス 第1章 水泳と生活	授業の趣旨、内容説明 1. 水泳と生涯スポーツ			
	3	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳			
	4	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳			
	5	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳			
	6	第3章 水泳指導者	1. 指導者と指導の基本			
	7	第3章 水泳指導者	1. 指導者と指導の基本			
	8	第3章 水泳指導者	2. 指導の考え方と基本的原則			
	9	第6章 水泳指導法	1. 準備・整理運動／2. 技術水準別指導			
	10	第6章 水泳指導法	3. 年齢別指導			
	11	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導			
	12	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導			
	13	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導			
	14	第4章 水泳の管理	2. 水泳と保健			
15	第4章 水泳の管理	2. 水泳と保健				

16	第4章 水泳の管理	3. プールの衛生基準
17	第4章 水泳の管理	3. プールの衛生基準
18	第5章 水泳と安全対策	1. 安全のための指導
19	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
20	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
21	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
22	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
23	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
24	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
25	第9章 競技概要と審判法	1. 競泳競技
26	第9章 競技概要と審判法	2. 水球競技～6. 日本泳法
27	第9章 競技概要と審判法	7. 競技会の計画と運営
28	救助法・心肺蘇生法	実技
29	まとめ	第1章～第5章
30	まとめ	第6章～第9章